慶應義塾大学学術情報リポジトリ
Keio Associated Repository of Academic resouces

Title	グローバルイノベーションを促進する冗長性についての考察 : 海外子会社マネジメントの観点から
Sub Title	
Author	中村, 匠吾(Nakamura, Shogo) 浅川, 和宏(Asakawa, Kazuhiro)
Publisher	慶應義塾大学大学院経営管理研究科
Publication year	2014
Jtitle	
JaLC DOI	
Abstract	
Notes	修士学位論文. 2014年度経営学 第2977号
Genre	Thesis or Dissertation
URL	https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=KO40003001-00002014-2977

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the KeiO Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

慶應義塾大学大学院経営管理研究科修士課程

学位論文（　　2014　年度）

論文題名

グローバルイノベーションを促進する冗長性についての考察
―海外子会社マネジメントの観点から―

主　査	浅川和宏
副　査	大林厚臣
副　査	安道知寛
副　査	

学籍番号	81330930	氏　名	中村匠吾

論 文 要 旨

所属ゼミ	浅川 研究会	学籍番号	81330930	氏名	中村匠吾

（論文題名）

グローバルイノベーションを促進する冗長性についての考察

―海外子会社マネジメント観点から―

（内容の要旨）

グローバルイノベーションについては、Ghosal and Bartlett(1988) が学術的な観点から体系的に説明している。このような学術的な研究の蓄積に加え、近年ではグローバルイノベーションは数多くの企業が積極的に取り組む施策となっている。しかしながら、未だに多くの課題が散見されており、こうした企業は課題の解決に注力しているのが現状である。本稿では、このような課題の 1 つである海外子会社間における役割の冗長性をいかに管理するかという観点から、「構造的な穴」や「吸収能力」に関連する理論的仮説の検証を行なう。又、海外子会社間のネットワークだけでなく、海外子会社マネジメントという観点では欠かせない本社と子会社間の関係性についても言及した上で検討をする。

研究方法としては、演繹的な仮説検証型の手法を基本としながらも、現象から理論を構築する帰納的な手法を取り入れる abductive なアプローチに基づき、検証を進めている。演繹的なアプローチに関しては、多国籍企業における 442 社の海外子会社を対象として統計的分析を行い、理論的仮説の検証を行っている。帰納的なアプローチに関しては、海外進出に積極的に取り組む機械系メーカー3 社についてインタビュー調査を実施し、事例研究を行うことで、新たな理論構築を行っている。

結論としては、統計的な分析においては以下の 4 つの示唆が得られている。①冗長性は、子会社の業績にネガティブな影響を与える。②吸収能力が蓄積されている場合、こうした影響は緩和される。③自律性は、子会社の業績に対してポジティブな影響を与える。④吸収能力が蓄積されている場合、自律性は業績に対してネガティブな影響を与える。

事例研究においては、以下の 2 つの示唆が得られている。①本社の関与は、自律性及び冗長性が業績に与えるポジティブな影響を助長する。②今日においても本社は、グローバルイノベーションの促進に必要とされる感知・統合・活用という 3 つの機能に参画している。